

# クラス・学級 集団づくりガイドブック

大阪府教育センター

For beginners

## 本ガイドブックのねらい

経験年数の少ない教職員のみなさんが、集団づくりを進めていくときのガイド（道しるべ）となるように、基本的な事柄をまとめました。集団づくりとは何か、どんなこと

を大切にするか、各校種でどう進めるのか等を、実践や手法など交え、3つのSTEPで紹介しています。各学校で集団づくりを行う際に、ぜひご活用ください。



ペンさん  
(集団づくりに  
取り組みたい  
2年目教員)

クラスがなかなかまとまらなくて困ってるんですよ。

そうなんだね。具体的にどんなことをしているの？

「一致団結！」をクラス目標にしていますが、なかなかクラスに馴染めない子どもも多くて。でも、そもそも、なぜ「集団づくり」をするのですか？



みみずく先輩  
(10年目教員)

なるほど。集団づくりを「クラスをまとめる方法」ととらえているのかな。では、**集団づくりとは何か、どんなことをめざすのか、どう取り組んでいくか**について、これから一緒に考えていこう。

※本文中で使用している「クラス」という言葉は、校種などに応じて「学級」または「ホームルーム」等と読み替えてイメージしてください。

## クラスの課題を見つめてみよう - 集団づくりに取り組む理由 -

「みんな明るく元気だ」「もめごとはあまりなく、スムーズに過ごせている」「いじめはないように思える」…それならば、クラス・学級集団づくりに取り組まなくてもいいでしょうか？

一方、クラスをもう少し見つめてみると、「行事の時に、積極的に参加できない子どもがいる」「SNS上の子どもたちどうしのつながりでもめごどが起きている」「『どうせ、自分なんか』と、あきらめてしまう子どもがいる」「仲良し集団で固まってしまい、他の子どもたちには関心が薄くなっている」…こんなことはありませんか？

そのようなクラスでは、すべての子どもたちが安心して安全に過ごせているとは言えません。

そもそも「クラス」という一つの「空間」に集められた子どもたち一人ひとりには違いがあり、子どもたちは様々な形で関わり合い、時にぶつかり合いながら成長していくものです。ですから、意図的に取り組むことなしに、子どもにとって、自分のことをありのまま受け止めてもらえる、安全で安心な場所にはなり得ません。どのクラスにおいても、**集団づくりの取組みは必要不可欠**なのです。

## も く じ

プロローグ・本ガイドブックのねらい	1
<b>STEP 1 集団づくりについて知っていますか</b>	<b>2</b>
① 集団づくりのめざすもの	2
② どの子どもも安心して過ごせるクラスとは	2
③ 集団づくりへのアクション ～子どもの理解を深めよう～	3
<b>STEP 2 集団づくりを始めよう</b>	<b>4</b>
① 見通しをもって集団づくりを	4
② 子どもたちとの出会いを大切にしよう ～クラス開き～	5
③ 日常的な取組み 1 班活動をもとにした集団づくり	6
④ 日常的な取組み 2 子どもと子どもをつなぐ授業づくり	7
<b>STEP 3 集団の質を高めよう</b>	<b>8</b>
① 集団づくりを深めるための様々なアクティビティに挑戦！	8
② 行事を活かして	9
③ 自主的な活動とつないで ～願いや悩みを解決するために～	10
④ 実践コラム ～やってよかった集団づくり！～	11
* 集団づくりのイメージを持ってましたか？ ～あなたの納得度は？～	12

### 実践コラム

◆ 高等学校 思いを出し合える安心の場をつくるために	… 5
◆ 小学校 日常の取組みが、行事で活きる	… 9
◆ 高等学校 仲間と行動する力を育んだ先に	… 10
◆ 小学校 本音を言えたとき「A、ほんとは優しいで」と返してくれた	… 11
◆ 中学校 つなげていくクラスづくり	… 11
◆ 支援学校 互いの思いを出し合う中で	… 11

# STEP 1 集団づくりについて知っていますか

## ① 集団づくりのめざすもの

### 集団づくりの目的

一人ひとり違った個性・生活背景をもっている子どもたちを丁寧につないでいくことにより、次の3つのことを実現するのが集団づくりです。

1. 一人ひとりの（どの子どもも）もっている多様な個性が輝き合う
2. 子どもたちが互いの存在を尊重しながら、信頼関係を結ぶ
3. 結ばれた信頼関係の中で、さらに互いの成長を子どもたち自身が実感する

つまり、**集団（のまとまりや行事の成功）をつくるために行うのではなく、一人ひとりの子どもたちの成長のためにこそ集団づくりを行う**のです。また、集団づくりは、授業をはじめとする学校生活すべての中で取り組むものです。

### 集団づくりの中で子どもたちに育まれるもの

集団づくりを通して、次の3つが育まれることで子どもたちの豊かな成長につながります。

1. 集団の中で他者と関わることを通じて得られる、自分という存在への自信、自己肯定感（セルフエスティーム）
2. 人間への信頼感、他者を尊重する気持ちや他者への共感性、つまり「友達が好き、人間が好き」「人と関わるのが楽しい」という実感を持ち、人と関わる力・人とつながる力、対等な関係を結ぶ力
3. 「仲間と共に生きていくことは楽しい」「自分らしさを生かして、社会に関わりたい」という思いや見通し、自立して社会参加をしながら自己実現していく力

## ② どの子どもも安心して過ごせるクラスとは

子どもたちは、友達関係や学習、家での出来事、進路や将来のことなど、様々な思いや悩みを抱きながら学校生活を送っています。

子どもたちが、クラスで自分の思い（特に不安なこと）を伝え、解決していくためには、子どもたち自身が周りの一人ひとりの意見をきちんと受け止め、自分の経験を振り

返って共感したり、互いの考えを認め合ったりできる土壌が必要です。

子どもたちが、「まちがっても大丈夫だ」「不安や悩みを受け止めてくれる人がいる」と思い、「ここには自分の居場所がある」と感じることができれば、安心して過ごせるクラスとなっていきます。

CHECK!!

### クラスを見つめ直そう ～クラスの安心度チェック～

- いつも一人ぼっちで過ごしている子どもがいる。
- 授業の際に、教室に入りにくい子どもがいる。
- 授業中に「わからない」と言いにくい雰囲気がある。
- 子どもたちの間に力関係を感じることもある。
- 子どもたちどうしのトラブルが絶えない。
- まじめに取り組むことを冷やかすような雰囲気がある。
- 友達のミスに関して、周りの子どもたちが厳しすぎる。

さて、みなさんのクラスはどうか？



あてはまる項目があれば、「安心して過ごせない」と感じている子どもがいるかもしれません。「集団づくり」を見直してみましょう。

### ③ 集団づくりへのアクション ～子どもの理解を深めよう～

#### 一人ひとりの子どもを理解するために ～子どものサインをキャッチしよう～

クラス集団づくりを始めるためには、まず子どもたち一人ひとりの生活背景を理解し、子どもの様々な行動の意味を理解することが大切です。また、子どもや保護者の学校に対する期待や願いを把握することも必要です。

さらに授業中の様子だけでなく、それ以外の場面でも子どもたちが出しているサインをどのようにキャッチするのが肝心です。子どもたちのサインは言葉でわかりやすく発しているとは限りません。



#### 例えば、こんな様子はありませんか？

- イライラして反動的、攻撃的になった。
- 声をかけても返事がない。
- 欠席、遅刻、早退が増えた。
- 忘れ物や紛失物が多くなった。
- 視線をそらしたり、会話を続けなかつたりする。
- 教職員を避けている。
- 職員室や保健室の周りをうろうろしている。

サインをキャッチするためには「変化に気付くこと」が必要ですが、変化に気付くためには、「普段の子どもたちの様子」を知っておくことも大事です。「あれっ」「いつもと違う」と気付くために、日々の子どもの姿を丁寧に把握しておきましょう。

#### 子どもを丁寧に把握するために ～子どものことをわかるために、何を「みる」？～

##### 休み時間や放課後

- ・ 友達関係・遊びの様子
- ・ どこに行っているか、どんな場所で過ごしているか
- ・ 担任（大人）との関係

##### 服装

- ・ 服装、髪型の変化
- ・ 汚れ

##### 様子

- ・ 言葉づかい
- ・ 顔色、表情
- ・ 態度（投げやりになった、考え方が変わった、イライラしている、しんどそう…）
- ・ 遅刻、欠席しがち（不登校気味）

##### 月曜日や休み明けの様子

- ・ 顔色
- ・ 態度（だるそう、眠たそう、ハイテンション）
- ・ 登校時刻・誰と来ているか

##### 食（給食・弁当）

- ・ 食べ方・食欲（食べる量の変化）
- ・ 弁当の有無、内容
- ・ 誰と食べているか

##### 健康

- ・ 体重の変化・虫歯の数、その他（健康診断で治療勧告の出ているものが治療されているか）
- ・ 身体に傷がないか

##### 授業中

- ・ 発言の様子、態度（積極的になった等、意欲の有無）

##### 提出物とその内容

- ・ 忘れ物の増減
- ・ 準備物のそろう具合
- ・ 文字の書き方

##### 会話・話し合い

- ・ 班長会議
- ・ 朝の会・終わりの会
- ・ 子どもどうしの話 ・ 雑談

##### 他の教職員から

- 保健室、事務、校務員、他の学年・クラス・教科、管理職
- 教職員のチームワーク



##### 持ち物

- ・ 筆箱の中 ・ 持ち物の種類（不要なもの、今までと違うものがある、数が減っている）

##### 書き物

- ・ 日記、作文、班ノート、アンケート（子ども、保護者）

##### 保護者との連携

- ・ 家庭訪問・電話・連絡帳

以上のポイントを参考に、子どもをよくみましょう。その際に子どもの「よさ」を見つけようとする、生活背景も含めて丁寧に理解しようとする、集団の中で子どもどうしの関係やその子どもが見せる姿を見つめることを大切にしましょう。（『OSAKA人権教育ABC-人権学習プログラム-』より）

#### 教職員が子どもとつながるヒント ～気になるあの子の庭（＝最も輝いている場）へ出かけよう～

クラスの中には、いろいろな気になる子どもがいます。「自分に関係ない」と言って、人との関係を断ち切っている子ども、いろんな問題行動を起こしてしまう子ども、学校に来られなくなっている子どももいます。常々私たち教職員は、そんな子どもたちをなんとかクラスの中に入れようと努力しています。そういう努力も必要ですが、観点を変えてみることも有効です。

教職員の方から、気になるあの子の「庭」（＝興味を

もっている活動や趣味等、最も輝いている場）に行ってみる。または、そこへクラスの子たちを連れて行く。そういうことがあってもいいのではないのでしょうか。

その子の「庭」について知るために、まずはあの子どもがどんな遊びをしていて、毎日何を楽しみにしているのか、まず聞いてみましょう。もし、その子にとっておきの「庭」に入れてもらえたら、きっとあなたとの関係がつながるきっかけになるでしょう。

# STEP 2 集団づくりを始めよう



ベンさん

集団づくりの目的や子ども理解の大切さについてはわかりましたが、集団づくりって、具体的にどんなことをすればいいのですか？  
どうすれば子どもたちをつなぐことができますか？



みみずく先輩

集団づくりは、子どもたちとの出会いから始まるよ。  
4月の出会いをスタートに、1年間の流れや日常的な取組みについて考えていこう。

## ①見通しをもって集団づくりを

### 年間計画（流れ）を立てて取り組みましょう

#### 1学期 4月～8月 「安心できるクラスをつくろう」

4月、子どもたちは大きな期待とともに不安も抱えています。「この先生ならわかってくれる」「クラスに居場所がある」という思いがもてるように新しいクラスをスタートさせましょう。「クラス開き」をして、子どもたちが前向きな思いをもてるクラス目標を立てましょう。その後も、

教職員が子どもたちの理解を深めながら、校外学習等の行事や毎日の授業を通して、子どもどうしのコミュニケーションの機会を増やし、つながりをつくり、班活動等の日常活動も始め、どの子どもも安心できるクラスをめざしましょう。

#### 2学期 9月～12月 「より深く仲間のことを知ろう」

それまでの集団づくりを深める時期になります。行事の実施や日常生活の中でもめごとも多く起こることでしょう。むしろその一つ一つを乗り越えることが、子どもたちが互いを深く理解し合える機会となります。また、あるがままの自分を大切に思える活動や友達と自分との違いを知る活

動（P8を参照）、うわさや偏見について考える活動、個別の人権課題に関する学習等を、学級活動・ホームルームの時間、特別活動に加え、教科の学習にも効果的に取り入れることで、表面的な「仲良し」ではなく、子どもたちどうしのより深いつながりづくりをめざしましょう。

#### 3学期 1月～3月 「自分や仲間の成長を確認し、次年度への展望をもとう」

1年間、周りの人とのつながりの中で自分の仲間が成長してきたことを振り返ります。人間関係の在り方や自分自身の生き方について考える活動を通して、次年度以降や将

来に向けての展望がもてるようにしましょう。また、その姿を発信することで周りの人たちとつながることのよさを、子どもたちと共有、確認しましょう。

（参考「子どもたちが安心して過ごせる学級づくり」大阪府教育庁 平成29年）

## 集団づくりを進める上で困ったときは？

### 保護者や同僚との連携を進めよう

担任として子どもと信頼関係をうまく結べない等、集団づくりを進める上で困ってしまうことがあります。そんなときは、一人で抱え込まないことが大切です。

家庭訪問等で、直接、保護者の表情を見ながら言葉を交わすことで、子どもだけでなく保護者の願いや悩み、家庭での様子、関わり、成育歴などを把握しやすくなり、子どもへの理解が深まります。子どものことを一緒に考えようという姿勢で、保護者連携を進めましょう。

また、様々な機会に、教職員どうしで子どもの様子を話し、アドバイスを受けましょう。相談する中で子どもに対する新たな気付きやアイデアを得ることもつながります。

### 子どもたちと一緒に考え、メッセージを送ろう

めめごとが起きる、子どもどうしがつながりにくい等、困った状況の時こそ、子どもたちと一緒に考えるチャンスにしましょう。

具体的な日々の出来事を通して、どんな集団をつくりたいかを子どもたちに問いかけ、解決の仕方について話し合しましょう。「困っている子に言葉をかけよう」「いじめは許さない」「教室はまちがうところだ」「対立しても大丈夫、その都度みんな考えてよう」などのメッセージや担任としてめざしたいクラスの姿を、何度も繰り返し、具体的に語っていきましょう。学級通信を活用することも効果的です。

よし！ 一人で抱え込まずに、相談しよう！



## ②子どもたちとの出会いを大切にしよう ～クラス開き～



ペンさん

「出会いが大切」と聞きますが、子どもたちとの初めての出会いで、どんなことを大切にすればよいのでしょうか？

4月の初日。子どもが最も緊張しているこの日は、担任が迎える最初の山場だね。子どもたちがホッとでき、1年間がんばれそうだと思う日にしたいね。初めての出会いとなる「クラス開き」で大切にしたいことを確認しよう。



みみずく先輩

### クラス開きのポイント（4月）

#### 1 どんなクラスにしたいのかを語る

どんなクラスにしたいのか、どんなことをクラスに求めるのか、学校・学年、そして、担任の集団づくりにか

ける思いを語ります。

#### 2 まず、教員が率先して自分を開く

どの子どもも安心して過ごせるクラスにするために、まずは、担任自身が率先して自分を開くことが大切です。「この人なら、自分のことをわかってくれるのではないか」「虚勢を張らずともやっつけていけるのではないか」と子どもたちが期待のもてる場にしましょう。

そのためには、担任である自分はどんな人間か、何に喜び、何に怒るのか、なぜ教員になったのか等、具体的に語ります。子どもたちに自分を開き、子どもたちから、安心と信頼を得るための最初の大切な場面です。

#### 3 新しいスタートにかける子どもの思いを聞く

担任の思いを聞いて、子どもたちがどう思ったのか、しっかりと把握しておきたいものです。新しい学年・クラスになるとき、子どもたちは誰も前向きな気持ちを

もっています。子どもたちの気持ちを書く時間を取ったり、連絡帳等で保護者から伝えてもらったりして把握しましょう。

例えば、子ども時代の自分のクラスについてのエピソードを入れてみよう。抽象的な言葉だけでなく、教員として出会った子どもとのエピソードであれば、なお説得力があるよ。それらをもとに、めざす集団のイメージを伝えよう。何より自分自身の言葉で伝えることがポイントだよ。年度当初は事務連絡や配付物が多いので、事前にまとめておく等の工夫をして、自分が語る時間を確保しよう。くれぐれも書類の配付のみにならないようにね！



高等学校

### やってみよう！

#### クラス開きリハーサル

子どもたちの前で「自分を開く」と言っても、イメージできないかもしれません。

そんなときは、教職員どうして行う「クラス開きリハーサル」がおすすです。隣のクラスの担任や学年で、互いに自分の思いを語り合っておくと、自分が最も伝えたいことがはっきりしたり、子どもたちに伝えたいメッセージが整理されたりします。短時間でもよいのでぜひやってみましょう。

#### 「安心ルール」をつくる

どの子どもも安心して過ごせるようにするためのルール、すなわち「安心ルール」とはどんなものなのでしょうか。「●●してはだめ！」というような否定や禁止をするルールだけでなく、「互いに認め合えること」「教室では間違えていいこと」等の肯定的なルールは、子どもたちの安心につながるものです。さらに、クラスの子どもたち自身が必要性を感じ、守れるルールにするにはどうすればよいか、子どもたちと一緒に考え、つくっていきましょう。

### 実践コラム

#### 思いを出し合える安心の場をつくるために

生徒たちを迎える4月、担任から「一人ひとりの違いや思いを受け止め合える関係を築いてほしい」「誰かがつらい思いをしている時に、そっと寄り添える仲間になってほしい」、そんな願いを生徒に伝え「クラス開き」を行っています。それは、厳しい家庭状況にある生徒、いじめられた経験がある生徒、勉強につまずき自信をなくしている生徒など、様々な背景のある生徒たちが大きな不安を抱えているからです。

緊張感漂う新しいクラスの仲間の前で思いを出し合うことは簡単ではなく、「仕掛け」が必要です。そこで大切にしていることは、まず担任である私が自己開示をし、生徒へ思いを伝えることです。思いを出し合える安心の場であることを率先して示すことで、生徒たちも少しずつ心を開いていくことにつながります。

生徒たちはこれまでの経験や現在の思いを作文し、それをみんなで発表し合います。

「クラス開き」を通して、不安を抱えて高校に来ている仲間の思いを重ね合わせ、「かっこ悪くてもまちがってもよいのだ」ということや、「ありのままよい」ということを学んでいくベースをつくっていきます。

### ③日常的な取組み 1 班活動をもとにした集団づくり



ペンさん

子どもと子どもをつなぐには、どんな取組みがありますか？

例えば、班活動はどうだろう。班活動には、子どもたちが一緒に過ごし取り組む中で、互いを知り、思いを伝え合う機会ができるからね。まず、班やグループという小さな単位で、身近な仲間との人間関係づくりをすることからはじめてみよう。



みみずく先輩

#### 日常的に班で取り組める活動例

- ・朝の会や帰りの会を活用して、毎日語り合う ⇒ 互いの生活が見えてくる
- ・昼食を一緒に食べながら会話をする ⇒ 仲間と一緒に食事をする楽しさを感じる
- ・日直や掃除等の当番や係等の活動に取り組む ⇒ 仲間と協力してやり遂げる達成感を得る
- ・班活動とつなげて、班ノートに取り組む ⇒ 言葉では伝えにくい互いへの思いや子どもたちそれぞれの生活、悩んでいることを伝え合う

※高校や支援学校でも、グループでの活動を積極的に取り入れてみましょう。

#### 班活動をベースにした取組みの流れ

##### 1. クラス開き

- ◆子どもたちへの思いや願いを語る。

##### 2. 仮の班でスタート

- ◆最初は出席簿順で編成。班ノートも仮の班で始める。

##### 3. 子どもたちへのアンケートやインタビュー

- ◆「班づくりに向けて、あなたが支えていきたい人は誰？」
- ◆「班で、あなたと共にかんばってくれそうなのは誰？」

##### 4. 班長立候補

- ◆担任の願いを語る。
- ◆班長に求めるものを確認する。

##### 5. 班編成のための「班長会議」

- ◆学級代表と班長で構成する会議。時間をかけて班のメンバーの組み合わせを考える。

##### 6. 班編成

- ◆子どもの実態に合わせて班を編成する。

##### 7. 日常の班行動

- ◆班ノート、班日直、班学習、班でのランチなどに取り組む。

##### 8. 定例の班長会議

- ◆班の様子（授業中、掃除の時間、班ノート、課題）を班長が報告、クラスの課題について話し合う。

##### 9. 班会議

- ◆班内で課題を出し合い、話し合う。

##### 10. クラスミーティング

- ◆取組みの節目に設定。
- ◆信頼関係の中で、クラスの仲間に伝えたい思いや願い、不安等を語り合う場。

##### 11. 班での学習

- ◆遠足や宿泊行事、運動会（体育祭）、総合学習等でも班を活用。

#### 子どもと子どもの関係が深まる班にするには

～班づくりの際に考えてみよう～

##### 班長はどう選ぶ？

何でもできる子ども？ それとも周りの子どもをよく見ている子ども？ 班の仲間のことを考えて行動できるかどうかを基準にして、選ばれるようにしましょう。

##### 好きな人どうしがいいという意見に対して

好きな人どうしで組んだとき、不安を感じる子どもは本当にいないか、子どもたちに問いかけましょう。

##### 班のメンバーはどう決めるのか

毎日の多くの時間を共に過ごす班で、子どもたちにどんなつながりをつくりたいかを考えて、組み合わせを考えましょう。

##### 班のメンバーは仲良くなれるか

もめごとや対決が起きたときこそ、つながりを深め、子どもたちどうしの信頼関係を深めるきっかけにしましょう。

#### 思いを重ね合う班ノートの取組み

～さらに子どもたちのつながりを深めるために～

自分の思いをつづり、仲間の思いを知り、共感しつながっていく班ノートは、子どもをつなぐクラスの宝物になります。

自分を開いて書き合うことで、互いの生活や本音を知っていくことができ、互いの思いを重ねながら、仲間への信頼感が育まれます。

「悩んでいるのは自分だけじゃないんや」

「勉強をもっとわかるようになりたいねん」

「〇〇さんは、こんなにがんばってたんか」

「心配してくれている友達の思いに応えたい」

このような思いを伝え合うことが喜びにつながり、仲間とのやりとりが楽しみになっていきます。

また、班ノートに書かれた悩みや本音、前向きな気持ち等は班長会議で話し合ったり、学級通信に載せて読み合わせたりという積み重ねが、より子どもたちどうしの関係を深めていくことにつながります。

子どもは最初、班ノートに何を書いてよいのかわからないものです。何気なく書いた言葉や出来事から、子どもの生活や本音を引き出していくことができるように、教職員が丁寧にコメントを書いていきましょう。まずは個人ノートを活用していくことも有効です。

また、支援学校では、保護者とのノートのやりとりの中で子どもの生活背景が見えてきたり、子どもへの思いや願いを知ることができたりします。保護者どうしのつながりをつくるきっかけにもできます。

## ④ 日常的な取組み2 子どもと子どもをつなぐ授業づくり



ペンさん

集団づくりの大切さはわかるんですが、そのための時間がなかなか取れなくて…。  
みなさん、いつ集団づくりをしているのですか？

特別な時間を取って行うだけでなく、毎日の最も長い時間を過ごす  
**授業でこそ集団づくりを大切にしよう。**  
ここでは、**集団づくりの観点で毎日の授業を見直してみよう。**



みみずく先輩

### 「主体的・対話的で深い学び」を実現する土台となるのが、集団づくり

みなさんは、どんなことを大切にしている授業を行っていますか？  
すべての子どもたちが「わかる！」「楽しい！」「もっと学びたい！」と思える、子ども一人ひとりに応じた「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために日々授業づくりに取り組まれていることでしょうか。

集団づくりは「主体的・対話的で深い学び」の土台となります。子どもたちどうしの信頼に基づいた支え合える関係が土台にあることで、一人ひとりの子どもたちの力が最大限発揮され、さらに対話のある授業を通して、互いに深く学び合う授業をつくることのできるのです。

### 授業における集団づくりチェックポイント ～授業中に取り組みする集団づくりのポイント～

CHECK!!

- 授業中「わからない」と言える雰囲気がある。
- 発表を聞くと、発表者の方を見るなど、傾聴の雰囲気がある。
- 多様な意見や考え方（発言）を大切に取上げている。
- 気になる子どもが、輝く（活躍できる）場面や、周りの子どもと関わる中で肯定的に評価され、エンパワーされる場面がある。
- すべての子どもの発言が尊重されている。
- 友達の意見に関連付けて自分の意見を発表するよう支援している。
- 授業内ですべての子どもが発言できる機会をつくっている。
- 互いの努力や成長を評価し合える機会をつくっている。



（大阪府教育センター「大阪の授業STANDARD」より）

### 認め合い、高め合う学習集団をめざすために

#### ★「わからない」ことが大切にされる授業を

授業中に「わからない」と言える雰囲気がなければ、子どもたちは安心して学びに参加できないだけでなく、自己肯定感を高めていくこともできません。間違っても笑われることのない、誰の発言もが尊重される場でこそ、子どもたちは、わからないことがわかり、できなかったことができるようになるとともに、新たな課題に対応する意欲や力をもてるようになるのです。

#### ★子どもたちが互いのよさに気付く場面を

どの子どもももっている「わかりたい」思いや「わかった」喜びを、共有していく場面を積極的に設定することが大切です。友達の努力を評価したり、意見を聞いて自分の考えをより深めていくようにしたりする場面を通して、子どもたちは友達の見方を変えたり、よさを見つけたりすることができます。これらの積み重ねが、友達の状況に気付き、困っている友達への言葉かけや関わりに発展し、子どもたちどうしのつながりも深まっていきます。

#### ★グループ学習を取り入れよう

授業の中で、積極的にグループ学習を取り入れ、互いに認め合い、高め合う学習集団をつくりましょう。ただ形式として「グループ活動」をただだけで、子どもたちは自然に「学び合う」わけではありません。

#### ここが POINT !

- ・ 討議や参加・体験を大切に子どもたちの気付きを促し、周りや相談したくなる学習課題を提示します。
  - ・ 多様であることを尊重します。
  - ・ 困っている友達に対して、教え合いや励ましができたことを大切にします。
  - ・ いつも「教える側」の子ども、「教えられる側」の子どもという一方的で固定的な関係が変わるよう工夫します。
- 例) 学習に参加しにくい子どもの興味や関心、得意なことを授業に取り入れます。

# STEP 3 集団の質を高めよう

## ① 集団づくりを深めるための様々なアクティビティに挑戦！



### 互いのよさや違いを認め合うためには

- 1 子どもたちが自分の思いに気付くこと
- 2 互いに伝え合うこと
- 3 友達と自分との違いに気付くこと
- 4 それぞれによさがあると認め合うこと

という4つのステップが必要です。そんな経験を積み重ねるための2つのアクティビティを紹介します。

### 「いま どんなきもち？」

様々な表情をしている子どものイラストの力を借りて、子どもたちが自分のその時の気持ちに気づき、その気持ちを言葉等で表現し、カードを見せながら伝え合う活動です。自分の気持ちが時と場合で様々違うことや、友達もいろいろな気持ちをもっていること、同じ経験をして、違う気持ちになる友達がいることなどの気づきにつなげます。それぞれの気持ちはどれも大切であることに共感しながら、様々な人の立場や気持ちを理解していくことにつなげていくことができます。



(大阪府教育庁「人権教育教材集・資料」に収録)

### 「大切にしたい権利」

「自由にできるお金をもらう権利」  
「みんなと違っていいことを認められる権利」  
「いじめられたり、命令や強制されたりしない権利」  
等、10の権利から、自分にとって大切だと考える順に選び、その理由も含めて交流をします。それぞれの権利を選ぶ理由には、それまでの成育歴や現在の家庭の状況も含めた多様な背景があります。その中で、自分にとって大切なことは何かを深く考えるとともに、友達を選択を聞くことで、価値観の多様性に気づき、互いの違いを尊重することの大切さを学びます。

(大阪府教育庁「子どもたちが安心して過ごせる学級づくり」の「教材や資料」に収録)



### もめごとや対立を解決することを通して

もめごとや対立が起きたとき、その原因について丁寧に話し合う中で、「どうしてそんな行動をとってしまったのか」「どう伝えればよかったのか」「どうしたら納得のいく解決ができるのか」等を考え、伝え合い、子どもたちどうして解決することが大切です。もめごとや対立をプラスの力に変えるために、思いの伝え方のスキルを身に付ける2つの活動や解決の仕方について紹介します。

### 「I (アイ) メッセージで伝える」

子どもたちは、日常の中でもめごとが起きたとき、「あなたが〇〇だからでしょ！」と相手を批判するような言い方(「Youメッセージ」)でトラブルを大きくしてしまったり、逆に受け身的にしか表現できず、ストレスを抱えてしまったりすることがあります。

反対に「I (アイ) メッセージ」では、自分の気持ちや考えを「私はこう思う」と率直に伝えます。「私」を主語にしたメッセージの方が、「あなた」を主語にするより気持ちが伝わりやすく、具体的で、相手は反発心をもちにくくなります。

この活動では、対立が起きた場面を想定して、「Youメッセージ」を「Iメッセージ」で言い換えるロールプレイをします。「私も、あなたもOK」な伝え方をどうすればよいか考え、コミュニケーションのスキルを身に付ける活動です。

(大阪府教育庁「いじめ対応プログラムⅡ」に収録)



### 「ピアメディエーション-友達の助けを借りて-」

もめごとや対立がこじれていくと、互いに自分の立場でしか物事を見られなくなります。そんなときは、第三者の子ども達の助けを借りるのも一つの方法です。「ピアメディエーション」は、教職員でも指導者でもない自分たちの仲間が、中立な立場の第三者として間に入り、互いが納得できるWIN-WINの解決に向けて話し合いを進めていく方法です。この中立な立場の第三者のことを、メディエーター(調停者)といいます。メディエーターを介して、話し合いを進めていくことで、互いの意見や思いを客観的にとらえることができるようになり、課題が整理されます。

メディエーターの役割は、アドバイスをすることでも、相手の言い分を伝えることでも、判定を下すことでもなく、それぞれの話を聴いてしっかりと受け止め、当事者をエンパワーしていくことです。当事者がエンパワーされることで、相手に肯定的メッセージを伝えたり、冷静にその時の自分を振り返ったりすることができます。メディエーターになるためにはトレーニングが必要です。このトレーニングを通して、メディエーター自身もエンパワーされ、成長していきます。

(大阪府教育庁「いじめ対応プログラムⅠ」に収録)



## ②行事を活かして



ペンさん

もうすぐ音楽会です。一部の子どもたちは楽しそうに取り組んでいるのですが、クラス全体となると、いまいち盛り上がっていないような気がして…。



みみずく先輩

行事だからクラスを盛り上げるのではなく、**行事の中でクラスのつながりをどう深めるかが大切だね。**  
**行事を活かして集団づくりをどう進めるか、考えてみよう。**

### 行事は、集団づくりを進める大きなチャンス

音楽会、運動会（体育大会）、校外学習、修学旅行などでは、行事の成功という共通の目標をもって、子どもたち自身が主体的に取り組めます。協力する楽しさや達成感を味わい、周りからの評価も得られ、子どもたちにとって自己有用感や自尊感情を高めたりすることにもつながります。

しかし、子どもたちの思いや行動には個々に違いがあるため、行事に向けては、必ずもめごとが起きます。そんなときこそ、集団づくりを進める大きなチャンスです。

まず、それぞれの意見の相違点を出し合い、聞き合う中で、子どもたち自身が互いの感じ方や考え方に違いがあることを受け止められるようにしましょう。その上で、問題を解決するためにどうすればよいかを、子どもたち自身が考えられるように支援します。そうして、何とか折り合いをつけようと互いに努力する経験を通して、子どもたちの関係性が変わり、つながりが深まっていきます。

音楽会を通して、集団づくりに取り組むぞ！



### 音楽会に向けて実際に取り組んだ担任（ペンさん）の例

行事に取り組む際のポイント	子どもたちの様子から取り組んだこと、担任の思い
実態を踏まえた計画づくり	① 日常のクラス集団の様子と課題を明らかにする 一部の子どもだけで盛り上がっている。参加するのが苦手な子どものことが大切にされていない。 ⇒ <b>苦手な子どもも含め、みんなが楽しめる音楽会にしたい！</b>
	② 子どもたちへの担任の願いを語る 「自分と違う意見をもった周りの友達の思いを聞き、尊重できるようになってほしい！」と子どもたちに投げかけた。 ⇒ <b>精一杯伝えただけ、子どもたちに思いは伝わったろうか。</b>
	③ 子どもたちと共に目標を立てる 子どもたちと話し合い、目標を「自分が楽しむ、友達も楽しめる、みんなの音楽会！」に決めた。 ⇒ <b>子どもたちが、身近な友達やクラスみんなのことを考え、意見を出し合えた！</b>
一人ひとりが輝く工夫	④ 一人ひとりの個性や得意な部分を活かした発表やプログラムにする アイデアを出し合い、個々の子どもたちの得意なことを演奏に取り入れようとするが、もめごとが多く起きる。あきらめずに話し合いを繰り返す。 ⇒ <b>もめごとばかり… でも、だんだんと互いの気持ちを聞き合えるようになってきた！</b>
	⑤ 互いの努力や願い、がんばりを紹介し合う場面づくり 担任や友達から、「できたこと」でなく、がんばっている姿を毎日の終わりの会で紹介し合った。 ⇒ <b>互いのことが理解し合えて、子どもたちもとてもうれしそう！ 当日も楽しみ！</b>
	⑥ 友達の新しい面に気付き、関係が深まるきっかけに 普段関わりが薄い友達と共に練習したり、特に苦手な子どもが活躍できる箇所をつくったりして、一緒にやり切る喜びをもてた。 ⇒ <b>やった！ 子どもたちから「仲間と一緒にできてよかった！」という言葉が。</b>



### こんなことに留意して、取り組もう！

- ・すべての子どもが、同じように大切にされて、活動に参加できているかな。
- ・取組みの中でつらい思いをしている子どもはいないかな。
- ・互いに関わり、起きたもめごとを、子どもたち自身が解決するように支援できたかな。

### 実践コラム 日常の取組みが、行事で生きる

小学校

Aは、思い通りにいかないことがあると、気持ちのコントロールが難しいところがありました。活動で興味のないことには、担任の言葉を遮ったり、友達の注目を浴びようとするところもありました。

そんなAがクラスの友達とつながっていかれたらと考え、Aが楽しめることを活動の中心に置き、Aの発想豊かなアイデアを取り入れるようにしました。Aのよいところや優しいところを見つけては、クラスの友達にも伝えるようにしました。すると、クラスの友達もAと一緒に遊ぶと楽し

いという気持ちに変わってきました。

運動会でのダンスをAは嫌がり、活動から離れてしまう様子がありました。しかし、そんなAを見ていた周りの子どもたちは、「A、こんなんやったらできるかな?」「おもしろいことがすきやから、こんな振付にしよう」と様々な振付を考え、ダンスを創り上げていきました。そして、運動会本番には、たくさんの保護者の前でAも一緒にダンスをすることができ、みんなで喜び合うことができたのです。

### ③自主的な活動とつないで ～願いや悩みを解決するために～

集団づくりを通して、子どもたちどうしのつながりが深まると、仲間の抱える課題について一緒に悩む中で、仲間のために何かできることはないか、と考えられるようになることがあります。そこから、クラスや学校、そして社会にある様々な課題に対しても、自分の生活と結び付けて考え、その解決のために行動しなければと考えるようになる子どもたちも現れます。それらの課題解決のために自主的活動に取り組むことは、子どもたちにとって実際に

自分たちの力で課題の解決にチャレンジするという貴重な経験となります。「自分たちには学校や社会を変える力がある」という自信を育むとともに、「よりよい学校や社会をつくっていきたい」「人の役に立ちたい」と、積極的に社会参加、社会貢献していく態度や行動力を育むことにつながります。

#### 子どもたちの願いから出発して、自主的活動に取り組もう

##### 1 子どもたちの悩みや願いを出発点に

子どもたちの自主的な活動となるように、子どもたちが日々どんなことに悩み、どうなってほしいと願っているのか、その悩みや願いを出発点に取組みを始めましょう。

- いじめなど、よくない雰囲気を取り除きたい。
- 障がいのある友達のことを一緒に考えたい。
- 友達の国や地域の文化をもっと知りたい。
- 社会や人の役に立つことをしたい。
- 校区や地域のためになることをしたい。

##### 2 計画・立案のために考える

- 目標を決める  
やりたいことを出し合いながら、具体的に実現できることを考えましょう。
- 誰と一緒に取り組むか
- 取り組むための組織をどうするか  
クラス？ 委員会？ 生徒（児童）会？ 有志？
- どうやって仲間を増やすか
- どこに何を協力してもらうか  
教職員・PTA・地域・保護者等

##### 4 自主的活動に取り組む ⇒ 発信

どんな場で、どうやって、何を、いつ、発信するか、具体的な行動に結び付けましょう。

- 例) いじめについて考えるための劇を、文化祭に向けて生徒会役員と有志で取り組む。その際に、いじめについて学習し、身近にあった事例から、子どもたちがシナリオを考える。
- 例) 友達の国や地域文化について学ぶサークルを立ち上げ、放課後に民族楽器等の演奏を練習する。地域での祭で、民族楽器の演奏を発表する。
- 例) 中学校夜間学級への訪問のために学年の学級代表を中心に実行委員会を結成し、訪問を行う。夜間学級の生徒さんへのお土産づくりや交流のために質問したいことを考えるなど、交流の準備をする。

##### 3 どんな活動ができるか考えて行動へ

- いじめをなくす取組み
- 障がいのある仲間とともに活動する会
- 多文化や多様性を尊重するサークル
- ボランティア活動
- 環境保護活動
- 地域の祭を盛り上げる活動 など

困難や障壁にぶつかったときには、なぜこの取組みをするのか、どんな意味があるのかを再確認しよう。子どもたち一人ひとりが、取組みの意義を実感できるように、話し合いながら活動を進めていこう。



高等学校

#### 実践コラム 仲間と行動する力を育んだ先に

2011年の東日本大震災から数日たったある日、一人の卒業生から連絡がありました。「今回の震災に関して、私たちも何か行動したい。どうしたらいいかな？」という相談でした。

本校では人権学習の際に、必ず「私たちにできることは何か？」を考えるようにしています。社会にある課題を「自分の問題」として捉え、仲間と共に行動できることを人権学習の目的としています。

授業以外でも、生徒の有志を募り、ボランティア活動を行っています。この相談をしてきた卒業生も、在学中

にホームレスの方への炊き出し等、様々な活動に参加していました。今回、相談してきたのも、たまたま何人かで会った際に震災の話題になり、「自分一人ではできないことも、仲間と一緒にならできるかもしれない」となったそうです。

最終的に卒業生たちは、駅での募金活動をすることにしました。その姿を通して、子どもたち自身が仲間とつながり、社会の課題に対して行動することの大切さを実感できました。

## ④実践コラム ～やってよかった集団づくり！～



みみずく先輩

集団づくりに取り組むことで、クラスが、どの子どもたちにとっても安全で安心できる場となり、自分の思いを出せるようになっていたり、仲間の思いを共感的に受け止めたりできるようになっていくよ。

特に、気になる子どもへの周りの関わり方が変わり、その子ども自身がエンパワーされる姿がそこにあるんだ。いくつかの実践を紹介しよう。

### 本音を言えたとき「A、ほんとは優しいで」と返してくれた

小学校

小学3年生のAは、1、2年時には、授業に対して意欲がもてず、感情のコントロールができないときは、身体の不調を訴えたり暴言をはいたりして教室から出て行くことが多くありました。担任は丁寧に話を聞き、保護者との連携も図ってきました。Aは自分自身と向き合い「優しい自分になりたい」と気付きますが、「友達の態度が気になる」と、葛藤しながらもトラブルを起こしていました。ケース会議で情報を共有し、担任が粘り強く話をしながら、養護教諭等もサポートしていきました。

Aがクラスの中で「優しい自分になりたい」と言えた

き、それに友達が共感し「A、ほんとは優しいで」と言うてくれました。その時Aは、初めて自分の居場所を見つけたと思います。もちろんすぐに全部が変わるわけではありませんが、2年生のみんなが思いを出し合った感動の「クラス卒業式」も、Aにとって「クラスっていいな」と思える瞬間でした。3年生になって、身近なモデルとの出会いや、不安定になったときの担任・養護教諭の支援により、授業を抜けることはなくなり、クラスの課題のある子どもにさりげなく関わり、サポートできるようになっていきました。

### つなげていくクラスづくり

中学校

中学2年生のAは、周りの友達に無理して合わせている様子があり、失敗して泣いてしまった友達に、「なに泣いてるん？ どうせなぐさめてほしいだけやろ」と冷たく言うこともある一方で、秋の合唱コンクールを欠席したときには、「みんなでいっしょに一つのことをする意味がわからない。でも、こんな自分に不安がある」と初めて自分の思いを打ち明けました。私はAの不安を取り除くために、周りの子どもとのつながりをつくっていこうと考えました。

班長のBが、職業体験学習の際、「Aみたいになりたい」と伝えたり、悩みをAに打ち明けたりする中で、AはBに対して心を開き始めました。Bが班長会議でもAへの思いを語ることで、Aが安心できる関係をつくろうと班長達が動くようになりました。そんな中で

Aも少しずつ、学習で困っている友達に教えたり、悩みを聞いたりできるようになっていきました。気付けば、クラス全体でも、困っている仲間へ「どうしたん？」と言葉をかけることが増えていました。

3年生になり、Aは「小学生の時に仲間外れをされたことから、人の様子をうかがい、合わせるようにしてきた」と、周りの仲間を信じられず、不安を感じてきた理由を話すことができました。

クラスの仲間が自分の思いを語る姿に対して、受け止める側も自分の経験と重ね、共感したり自分自身の言動を振り返ったりすることができることを知りました。そして、仲間とつながるよさを味わうことで、Aだけでなくクラス全体が成長していく姿も見ることができました。

### 互いの思いを出し合う中で

支援学校

高等部3年生のAは、外部との接触に敏感で、多くの時間を頭から毛布を被って過ごしていました。周囲をよく観察し、いたずら好きでもありますが、クラスメイトに噛みついたり蹴ったりすることもあって授業は別室で過ごすことが多くなっていました。そんな時は、クラスのみんまでAが今どんな気持ちなのか、想像するようになりました。「うるさくてイライラしてるわ」「怒られて反省してんねや」「笑ってるのはなんかいいことあったんやで」など、出し合ったり本人に直接言ったりするのです。

そうやってAの胸の内を考えるうちに、生徒たちは自分の気持ちも振り返ってつぶやくことが多くなってきます。

みんなそれぞれに障がいがあり、複雑な家庭状況があります。「甘えてるわ。私やったら我慢するし」と言う子どももいれば、「気持ちわかる。こういう時は音楽聞くねん」と言う子どももいました。そんなとき、Aはじっと聞いていました。

クラスには、Aを受け入れ、「一緒に勉強しよう」という言葉かけが増えていきました。やがて、Aにも笑顔が増え、毛布から顔を出して教室にいる時間が増えました。互いに自分のことを出し合って気持ちを共有することが増え、クラスには穏やかな空気が流れるようになりました。



# 集団づくりのイメージを持てましたか？ ～あなたの納得度は？～

- 最後に、本ガイドブックで取り上げた、集団づくりに取り組む上でのポイントを表にしました。
- 各項目ごとにチェックして、自分の理解度を確認しましょう。
  - 「OK!」：ばっちり納得できた、実践したい
  - 「なるほど」:実践する自信はまだ持てないが、概ね理解できた
  - 「ちょっと…」：まだ疑問がある、あまり納得いかない
- 「OK!」にならなかった項目は、ぜひ、みなさんの周りの先輩教員に積極的に質問するなど、引き続き学びながら、集団づくりに取り組んでいきましょう。

項目(ポイント)	納得度
集団づくりは、クラスをまとめるためだけを目指して行うのではなく、一人ひとりの存在が互いに尊重される関係づくりを通して、子どもたちが豊かに成長することをめざして行うものである。	<input type="checkbox"/> OK! <input type="checkbox"/> なるほど <input type="checkbox"/> ちょっと…
集団づくりを始めるためには、まず子どもたち一人ひとりの生活背景も含めて様々な観点から、丁寧に理解しようとするのが大切だ。	<input type="checkbox"/> OK! <input type="checkbox"/> なるほど <input type="checkbox"/> ちょっと…
子どもたちとの出会いであり、1年のスタートでもある「クラス開き」では、担任の願いをしっかりと語り、子どもたちにとって安心できる場をつくるのが大切だ。	<input type="checkbox"/> OK! <input type="checkbox"/> なるほど <input type="checkbox"/> ちょっと…
班活動を通して日常的に子どもたちどうしがつながりを深められるよう、班長会議での話し合いや班ノートを活用するなど、子どもと子どもがつながる仕掛けを工夫するのが大切だ。	<input type="checkbox"/> OK! <input type="checkbox"/> なるほど <input type="checkbox"/> ちょっと…
わからないことを「わからない。教えて」と教員や仲間に言えたり、子どもたちが互いのよさに気付いたりできるように、授業の中でも集団づくりを進めていくのが大切だ。	<input type="checkbox"/> OK! <input type="checkbox"/> なるほど <input type="checkbox"/> ちょっと…
毎日の授業の中で、達成感や自己有用感をもてるようにすることに併せて、特に、なかなかスポットが当たりにくい子どもが輝く授業づくりをめざすのが大切だ。	<input type="checkbox"/> OK! <input type="checkbox"/> なるほど <input type="checkbox"/> ちょっと…
様々なアクティビティを取り入れ、子どもたちが互いのよさや違いを認め合ったり、もめごとが起きたときにその解決を通して集団をつないだりしていくことも、集団づくりには必要だ。	<input type="checkbox"/> OK! <input type="checkbox"/> なるほど <input type="checkbox"/> ちょっと…
行事の成功に向けて、子どもたちの意見を尊重しながら取り組むこと、子どもたちが理解し合える機会を大切にすることで、クラスのつながりを深めることができる。	<input type="checkbox"/> OK! <input type="checkbox"/> なるほど <input type="checkbox"/> ちょっと…



このガイドブックや資料を参考にして、がんばってみます！

どうだったかな？ さあ、このガイドブックを参考に、集団づくりを始めよう。



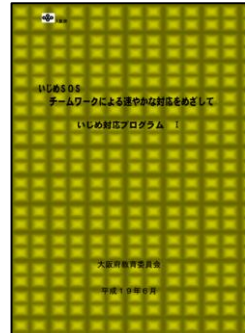
## 参考資料・冊子の紹介

集団づくりについてもっと知りたいと思ったときは、これらの資料や冊子を参考にしてみてください。大阪府内の実践や、すぐに使える取組みも数多く紹介されています。

◆「OSAKA人権教育ABC -集団づくり基礎編・探求編-」  
発行：大阪府教育センター

◆リーフレット「子どもたちが安心して過ごせる学級づくり」  
発行：大阪府教育庁

◆「いじめ対応プログラムⅠ・Ⅱ」  
発行：大阪府教育庁



◆「わたし 出会い 発見 Part6 -集団の中で、子どもとつながる・子どもがつながる 教材・資料集-」  
発行：大阪府人権教育研究協議会